

10月号 話し方のコツ

同じ内容を話していても、相手にきちんと伝わる人と伝わりにくい人がいるものです。話し方をちょっと工夫すれば、改善されることがあるようです。そこで今回は話し方のコツについて考えてみます。

1.笑顔で話す

こどもに安心感を与えるためには、何よりも笑顔が大切です。

2.ゆっくり話す

無意識のうちに早口にならないように注意しましょう。NHKのアナウンサーが話す速度は1分間に300字前後だそうで、聞き手が内容を理解しやすく、信頼性も高まる理想的なペースとされているようです。試しに実際に話してみると意外にゆっくりしているとわかります。

3.スピードを変える

大切なところは、こどもが聞き取りやすいようにさらにゆっくり話す。注目してほしい時にはあえて早口にするなど、緩急をつけることも有効です。

4.声の大きさを調整する

大きすぎると周囲のスタッフやこどもが気にするかもしれませんし、小さすぎると聞き取りにくいので適切な大きさを意識する必要があります。一般的には『相手の1列向こうに届くような声』が良いとされます。ちょっと難しいですが、こどもの正面から話をする際に、こどもの背中に声を通すイメージでしょうか。

5.強弱をつける

重要なところを説明するときに、あえて小さな声で話すと、こどもは何だろうと思い集中してくれることがあります。スピードの緩急と、強弱を組み合わせるとメリハリのある話し方を心掛けましょう。

6.間（ま）をとる

一方的に話を続けてしまうと、相手の理解が追いつかずに、考えることをやめてしまうことがあります。こどもの様子を見て、適度に間をとりましょう。

7.指示は1度にひとつ

一度にいくつもの指示を出すと、こどもは混乱してしまいます。指示を出すときには、あれこれ盛り込まずにひとつに絞って伝えることが大切です。

もし気になるケースがありましたら、近くのスタッフや指導員に確認してもらってもいいかもしれませんね。